

三島市 新幹線利用実態調査 結果報告書

2025年2月



目次

01	新成人向け調査	03
	回答者属性	04
	本調査回答	05
		06
02	三島駅調査	13
	回答者属性	14
	本調査回答	15
03	進学時の新幹線定期 利用率の推察	23
04	新成人向け調査 総評	30
	三島駅調査 総評	31

目的/調査であきらかにしたいこと

- ・新幹線通学者の実態(実際にどれくらいの人が新幹線通学利用しているか)
- ・制度を運用する場合、どのくらいの予算が必要となりそうか(今後の申請者見込数。実施可否含めて検討材料にしたい)
- (・制度をつくるにあたって、補助対象者などの条件設定の判断材料とできるもの)

新成人向けアンケート調査

調査手法

- ・インターネット調査
- ・アンケートサイトのQRコードを対象者の自宅に配布

調査対象者

- ・三島市の高校を卒業した2025年度に成人になる人

回収サンプル数

- ・159サンプル

設問数

- ・15問

調査期間

- ・2024年11月8日～2025年1月14日

三島市住民向けアンケート（三島駅）

調査手法

- ・インターネット調査
- ・アンケートサイトのQRコードをJR三島駅にて配布(12月10日・11日で配布)

調査対象者

- ・三島市在住の高校生～79歳の男女

回収サンプル数

- ・197サンプル

設問数

- ・17問

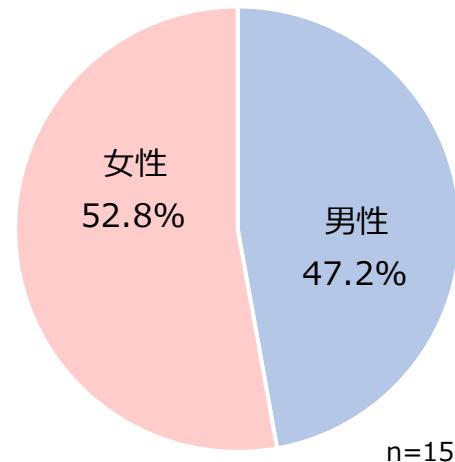
調査期間

- ・2024年12月10日～2024年12月23日

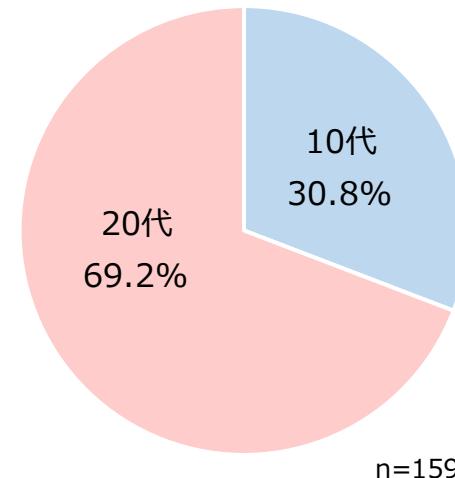
01 | 新成人

- 性別は「男性」47%、「女性」53%。
- 年代は「10代」が3割、「20代」が7割。
- 現在の居住地は「三島市」が65%、「三島市以外の静岡県」は3%。関東では「東京都」が11%、「神奈川県」が4%、「千葉県」が2%、「埼玉県」が1%。
- 職業は「学生」が93%を占め、「社会人」は7%。

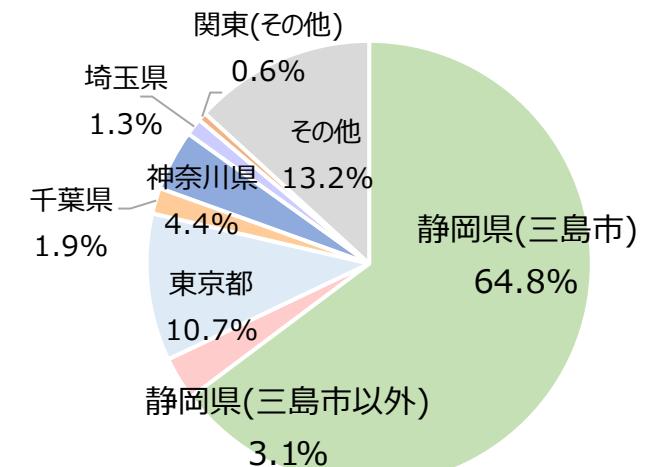
性別



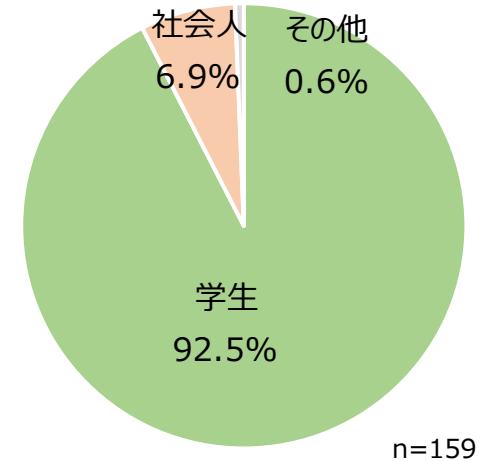
年代



居住地



職業



※補足

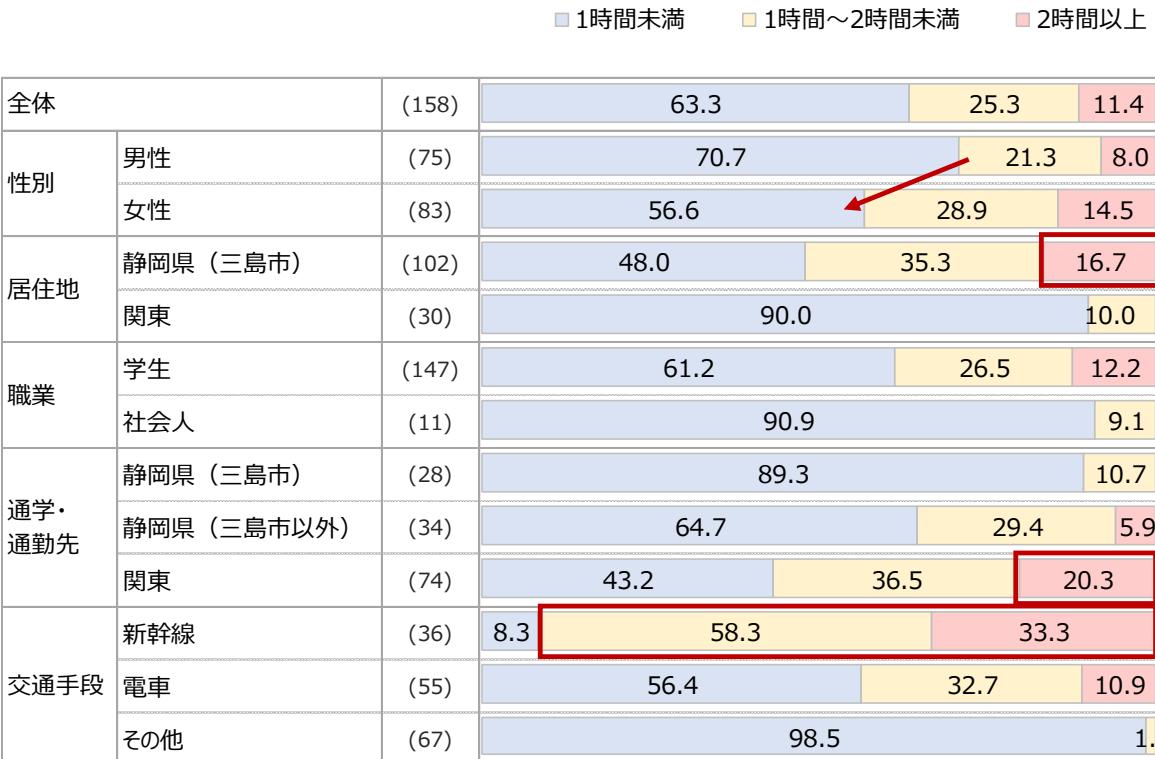
- 本アンケートは、新成人約960名を対象に配布し159名分を回収。

通学・通勤時間

Q5.あなたの通学・通勤にかかる時間(片道)をお選びください。

- 「1時間未満」が63%、「1時間～2時間未満」が25%、「2時間以上」が11%。
- 『男性』は「1時間未満」が7割で、『女性』(57%)より通勤時間は短い傾向。
- 『三島市』居住者は「2時間以上」が17%。
- 通学・通勤先が『関東』の人では「2時間以上」が2割みられる。
- 『新幹線』利用者は「1時間～2時間未満」が約6割、「2時間以上」が3割強。一方『電車』利用者は「1時間未満」が過半数を占める。

※学生・社会人ベース

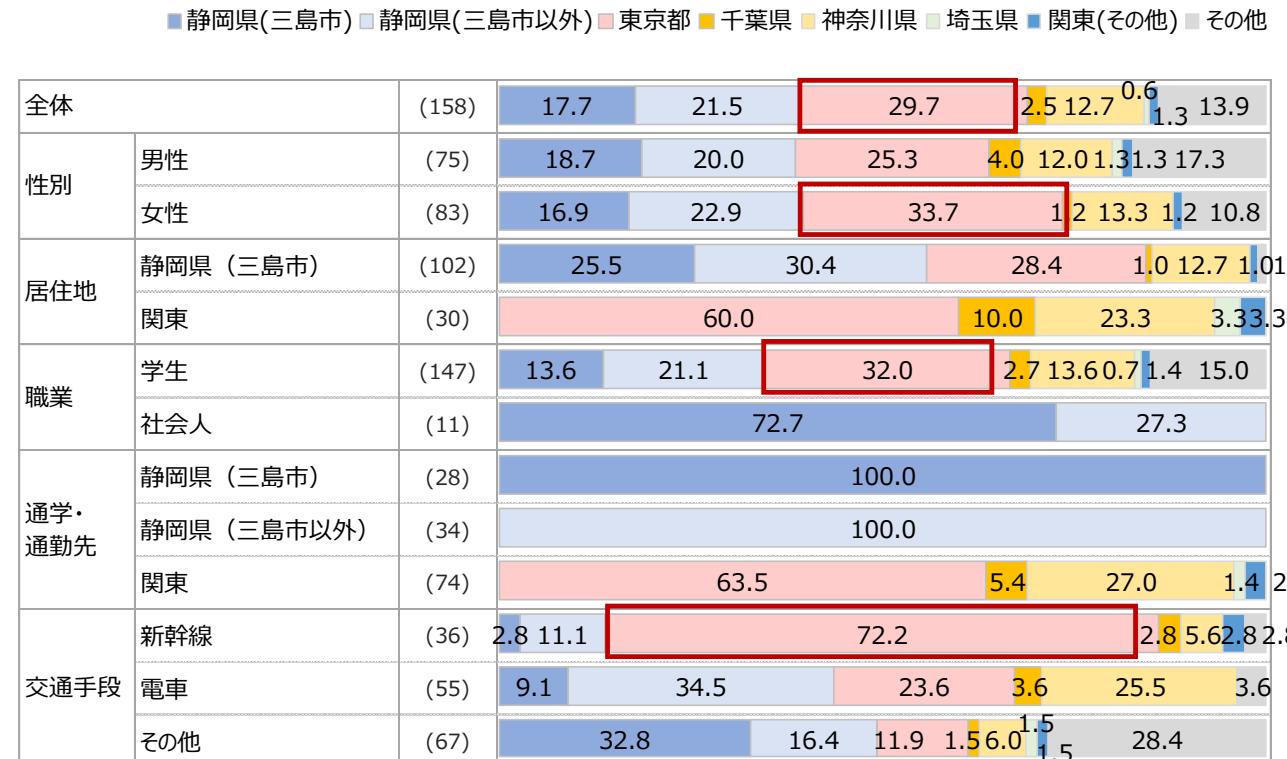


通学・通勤先

Q6.あなたの通学・通勤先をお選びください。

- 「三島市」が18%、「その他静岡県」が22%、計4割が静岡県内。関東では「東京都」が3割を占め、「神奈川県」が1割強。
- 性別でみると『女性』は『男性』より「東京都」が高く34%。
- 『学生』は「東京都」が3割を占め、「その他静岡県」が2割、「三島市」と「神奈川県」が1割強。『社会人』は全員が静岡県内だった。
- 『新幹線』利用者の7割が「東京都」に通学・通勤。

※学生・社会人ベース

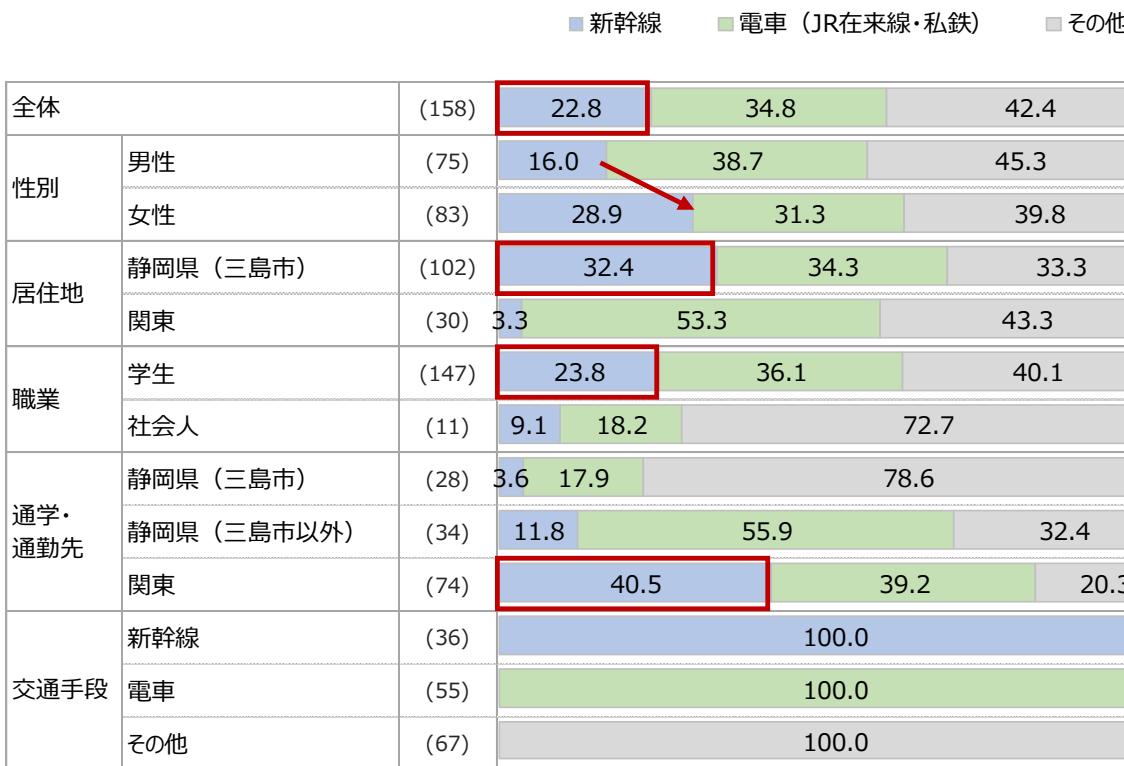


交通手段

Q7.あなたが通学・通勤時に主に利用している交通手段をお選びください。

- 「新幹線」利用者は23%。
- 『女性』の「新幹線」利用者は29%で、『男性』(16%)より高い。
- 『三島市』居住者では32%が、『学生』では24%が「新幹線」を利用。
- 『関東』へ通学・通勤している人では「新幹線」利用が4割に上る。

※学生・社会人ベース

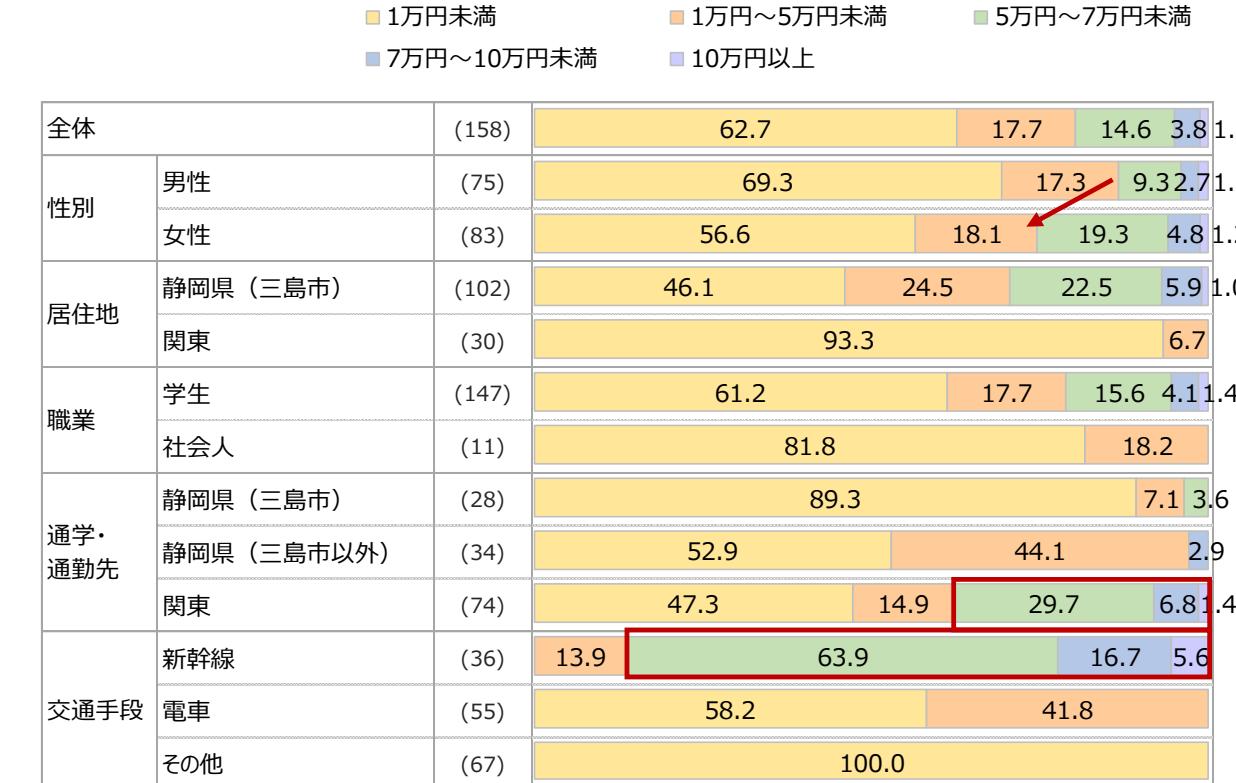


1ヶ月あたりの交通費

Q8. 1ヶ月あたりの通学・通勤にかかる交通費をお選びください。

- 「1万円未満」が6割。「5万円以上」は2割。
- 『女性』の方が新幹線利用率が高いため、交通費も高い。『男性』は「5万円以上」が13%に対し、『女性』では25%。
- 『関東』へ通学・通勤している人では「5万円以上」が4割。
- 『新幹線』利用者では「5万円～7万円未満」が6割強、「7万円以上」が2割。

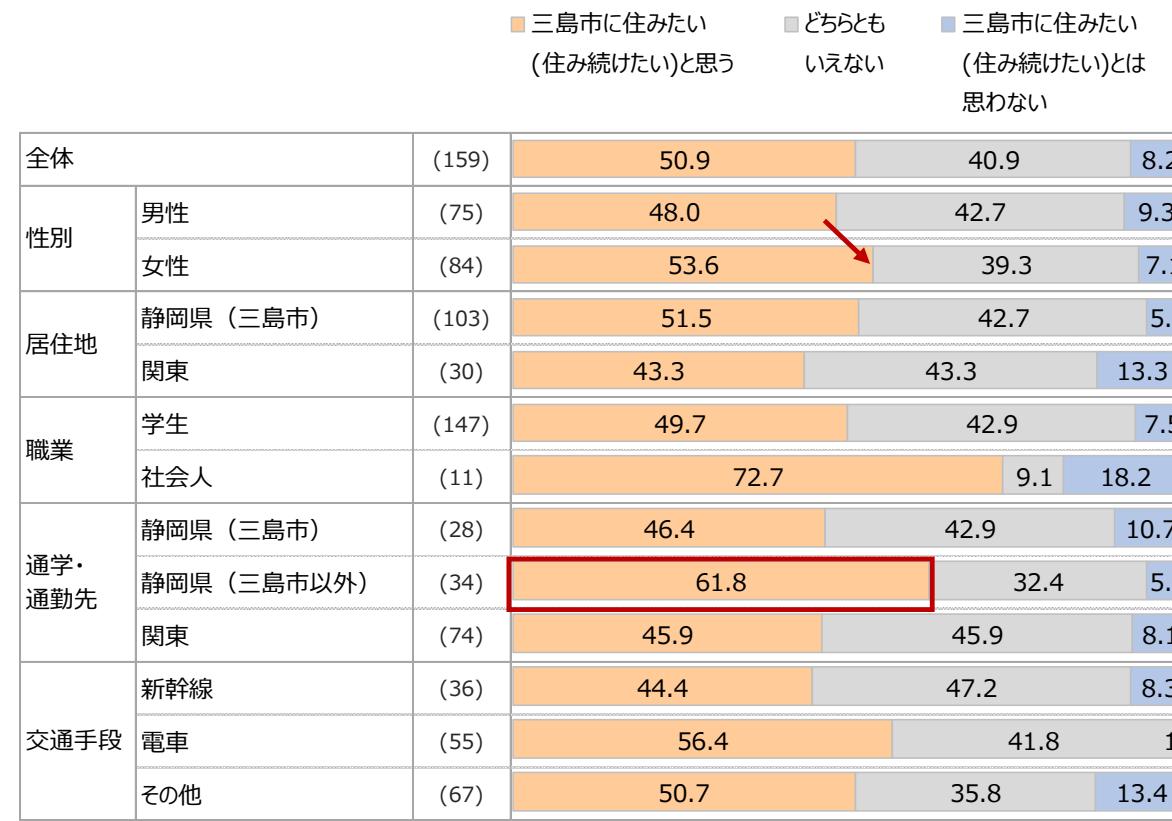
※学生・社会人ベース



居住意向

Q9.あなたは、将来三島市に住みたい（住み続けたい）と思いますか。

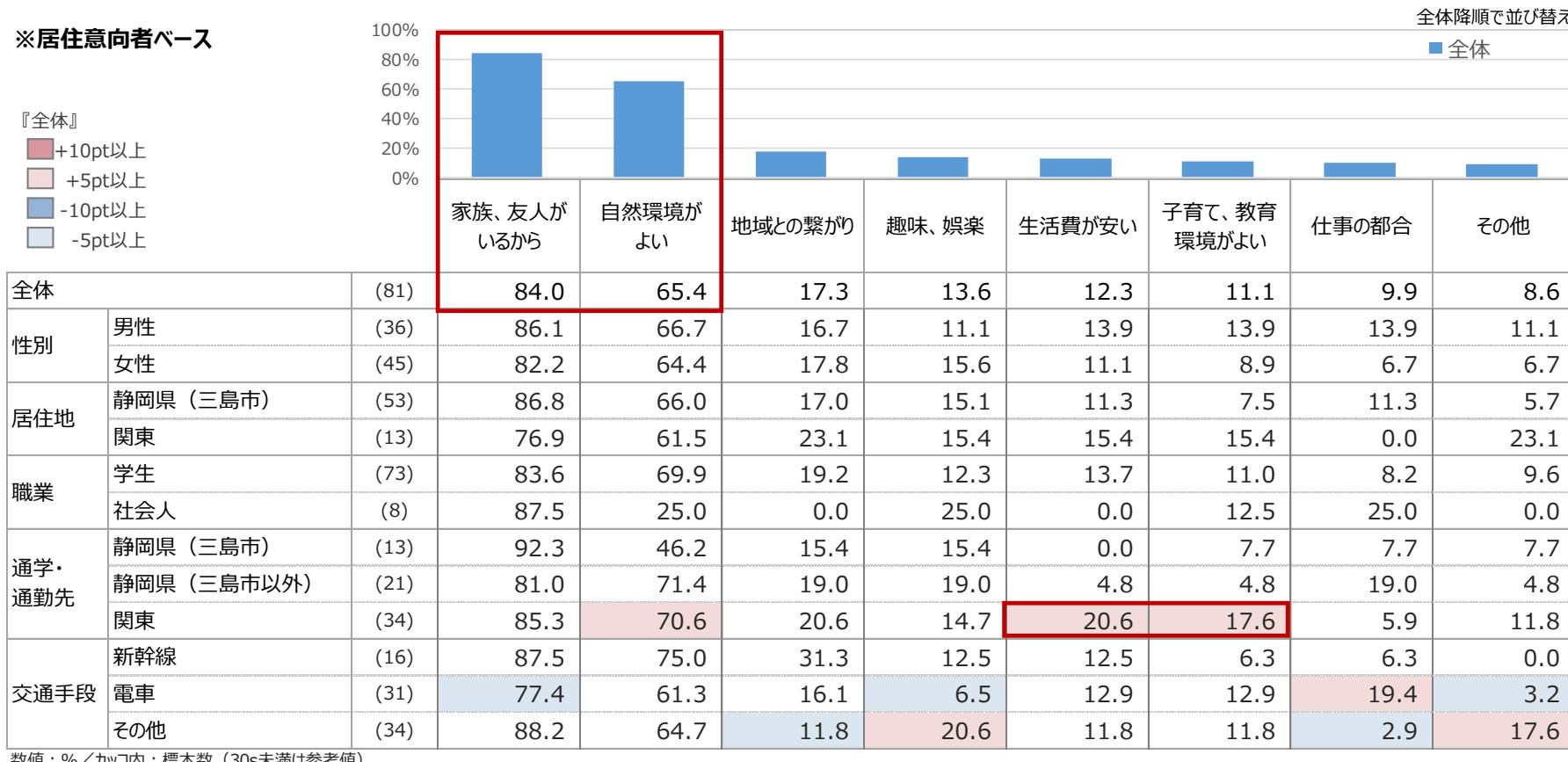
- 「三島市に住みたいと思う」は半数。「どちらともいえない」が4割で、「住みたいとは思わない」は1割未満。
- 『女性』の方がやや居住意向が高い。
- 通学・通勤先が『三島市以外の静岡県』では居住意向が6割。関東でも半数近くは居住意向あり。
- 『新幹線』利用者の居住意向は4割強。



居住意向理由

Q10.あなたは前問で「{Q9}」と回答しました。そのようにお答えになった理由をすべてお選びください。（複数回答）

- 「家族、友人がいるから」が84%でトップ。次いで「自然環境がよい」が65%で続く。
- 「家族、友人がいるから」は層を問わず全体的に高スコア。
- 『関東』へ通学・通勤している人は、「生活費が安い」、「子育て・教育環境がよい」が他層より高い。

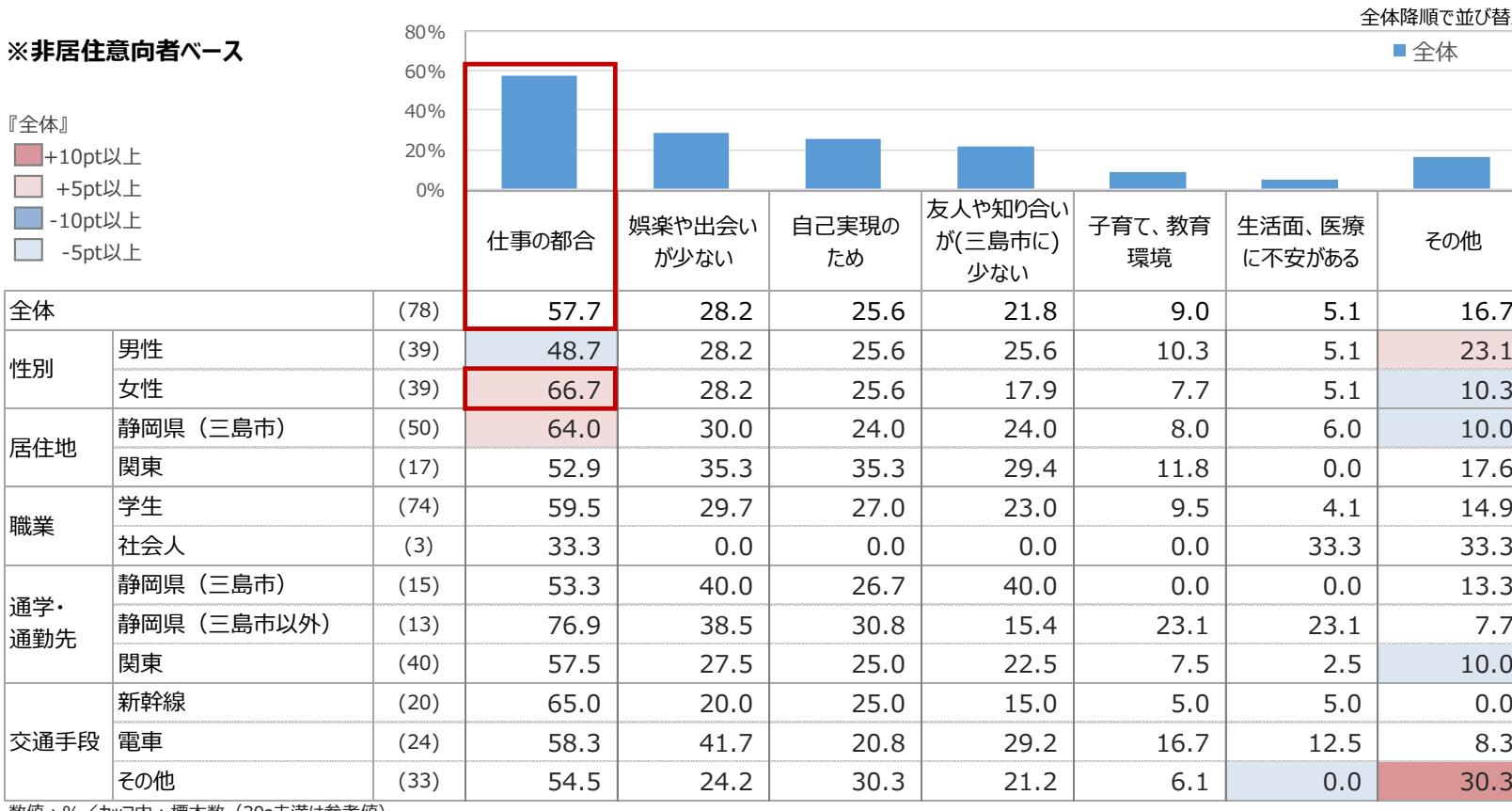


非居住意向理由

※Q9で「どちらともいえない(N=65)」「三島市に住みたい(住み続けたい)とは思わない(N=13)」を選択者

Q11.あなたは前問で「{Q9}」と回答しました。そのようにお答えになった理由をすべてお選びください。（複数回答）

- 「仕事の都合」が58%で最も高く、次いで、「娯楽や出会いが少ない」「自己実現のため」が26~28%、「友人や知り合いが少ない」が22%。
- 「仕事の都合」は男性より女性で高く67%に上る。



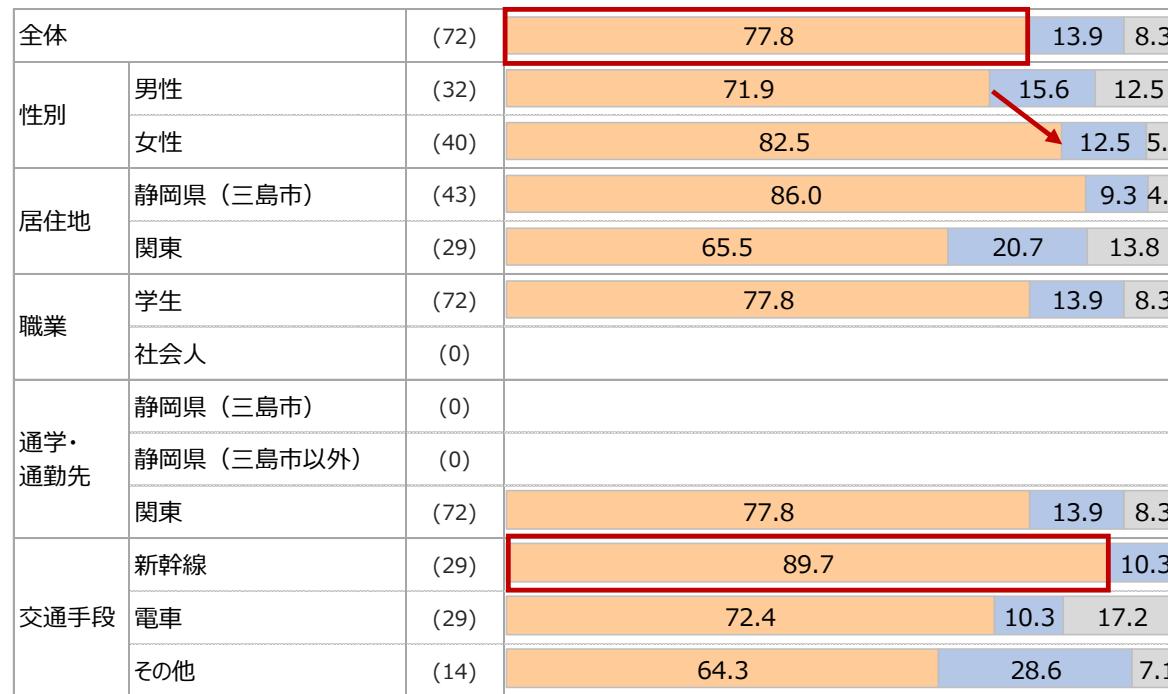
卒業後の居住意向

Q12. 東京圏に進学している方に伺います。新幹線通学補助制度があれば、卒業後三島市に住みたい（住み続けたい）という気持ちになりますか。

- 東京圏進学者の8割が補助金があることで、三島市に「住みたいという気持ちになる」と回答。
- 居住意向は『男性』(72%)より『女性』で高く83%に上る。
- 『新幹線』利用者では9割に達する。

※東京圏進学者ベース

■住みたい(住み続けたい) ■住みたい(住み続けたい) ■利用したいと
という気持ちになる という気持ちにならない 思わない



数値：%／カッコ内：標本数 (30s未満は参考値)

東京圏就職者の居住意向

Q13. 東京圏に就職している方に伺います。新幹線通勤補助制度があれば、三島市に住みたい（住み続けたい）という気持ちになりますか。

※東京圏就職者は出現無し

非対象者の意見

Q14.新幹線通学・通勤補助制度の対象とならない方に伺います。 新幹線通学・通勤補助制度について、どのように感じますか。

- 「若者の進学・就業支援につながるので良い」が63%、「若者の三島定住につながるので良い」は13%で、「もっと他の施策にお金を使ってほしい」(10%)と同程度。
- 『女性』は『男性』より「若者の進学・就業支援につながるので良い」が高く7割に上る。

※新幹線通学・通勤補助制度非対象者ベース

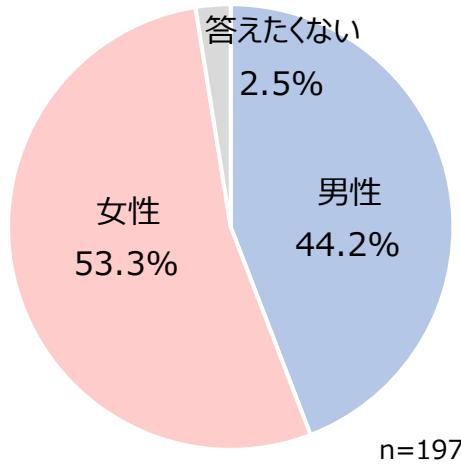
		若者の進学・就業支援につながるので良いと思う	若者の進学・就業支援につながらないと思う	若者の三島定住につながるので良いと思う	若者の三島定住につながらないと思う	もっと他の施策にお金を使ってほしい	その他
全体	(87)	63.2	4.6	12.6	4.6	10.3	4.6
性別	男性	(43)	55.8	4.7	14.0	4.7	11.6
	女性	(44)	70.5	4.5	11.4	4.5	9.1
居住地	静岡県（三島市）	(60)	63.3	6.7	8.3	5.0	11.7
	関東	(1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
職業	学生	(75)	62.7	4.0	13.3	5.3	9.3
	社会人	(11)	72.7	9.1	9.1	0.0	9.1
通学・通勤先	静岡県（三島市）	(28)	75.0	7.1	3.6	7.1	7.1
	静岡県（三島市以外）	(34)	58.8	5.9	11.8	2.9	11.8
	関東	(2)	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
交通手段	新幹線	(7)	42.9	0.0	42.9	0.0	14.3
	電車	(26)	57.7	3.8	15.4	7.7	11.5
	その他	(53)	69.8	5.7	7.5	3.8	7.5

数値：%／カッコ内：標本数（30s未満は参考値）

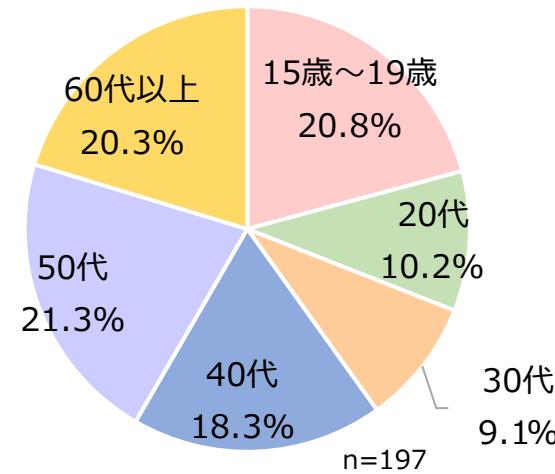
02 | 三島駅

- 性別は「男性」44%、「女性」53%。
- 年代は「15～19歳」が2割、「20代」も含めた“若年層”が3割を占める。「30代～40代」は3割程度で、「50代」、「60代以上」がそれぞれ2割を占める。
- 現在の居住地は全員が「三島市」。
- 職業は66%が「社会人」。「学生」が25%。

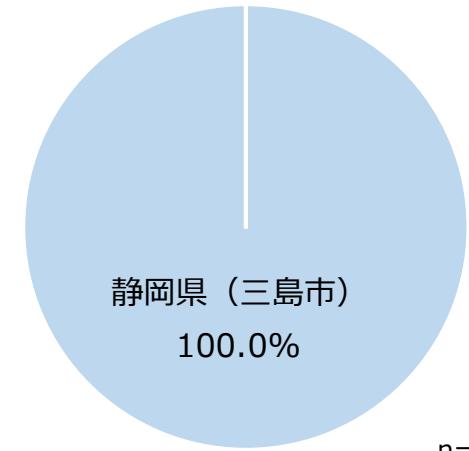
性別



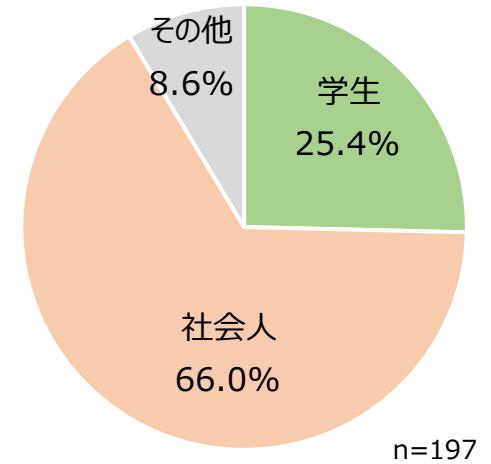
年代



居住地



職業



通学・通勤時間

Q5.あなたの通学・通勤にかかる時間(片道)をお選びください。

- 「1時間未満」が6割。「1時間～2時間未満」が3割。
- 『女性』は「1時間未満」が7割で、『男性』(56%)より通勤時間は短い傾向。
- 『30-40代』は「1時間未満」が7割を占め、他の年代より通勤時間が短い傾向。
- 『学生』は「2時間以上」が8%。「2時間以上」の比率は社会人より高い。

■ 1時間未満 ■ 1時間～2時間未満 ■ 2時間以上

全体	(180)	62.8	33.3	3.9
性別	男性	(82)	56.1	42.7
	女性	(93)	67.7	25.8
年代	20代以下	(61)	63.9	31.1
	30-40代	(51)	68.6	29.4
	50代以上	(68)	57.4	38.2
職業	学生	(50)	64.0	28.0
	社会人	(130)	62.3	35.4
通学・通勤先	静岡県（三島市）	(51)	96.1	2.0
	静岡県（三島市以外）	(91)	67.0	31.9
	関東	(37)	8.1	81.1
交通手段	新幹線	(42)	9.5	78.6
	電車	(83)	71.1	26.5
	その他	(55)	90.9	9.1
新幹線補助	あり	(55)	54.5	41.8
	なし	(51)	56.9	41.2

数値: %／カッコ内: 標本数

通学・通勤先

Q6.あなたの通学・通勤先をお選びください。

- 「三島市」が3割、「三島市以外の静岡県」が5割、計8割が静岡県内。関東が2割を占める。
- 『女性』は「三島市」(32%)の比率が『男性』(23%)より高い。
- 年代が高いと通勤先が三島市外に広がる傾向。
- 『新幹線』利用者の8割以上が関東に通学・通勤。2割は静岡県内。

■ 静岡県（三島市） ■ 静岡県（三島市以外） ■ 東京都 ■ 千葉県 ■ 神奈川県 ■ 埼玉県 ■ 関東（その他） ■ その他

全体	(180)	28.3	50.6	15.6	5.0	0.6
性別	男性	(82)	23.2	53.7	17.1	6.1
	女性	(93)	32.3	48.4	14.0	4.31.1
年代	20代以下	(61)	32.8	52.5	14.8	
	30-40代	(51)	27.5	51.0	13.7	7.8
	50代以上	(68)	25.0	48.5	17.6	7.41.5
職業	学生	(50)	32.0	54.0	12.0	2.0
	社会人	(130)	26.9	49.2	16.9	6.9
通学・通勤先	静岡県（三島市）	(51)	100.0			
	静岡県（三島市以外）	(91)	100.0			
	関東	(37)	75.7	24.3		
交通手段	新幹線	(42)	16.7	64.3	16.7	2.4
	電車	(83)	22.9	74.7	1.2	1.2
	その他	(55)	58.2	40.0	1.8	
新幹線補助	あり	(55)	20.0	45.5	21.8	12.7
	なし	(51)	29.4	47.1	19.6	3.9

数値: %／カッコ内: 標本数

交通手段

Q7.あなたが通学・通勤時に主に利用している交通手段をお選びください。

- 「新幹線」利用者は23%。
- 『男性』の「新幹線」利用者は28%で、『女性』(19%)より高い。
- 年代が高いと新幹線利用率も上がる傾向。
- 新幹線補助が『ある』人は補助が『ない』人より「新幹線」利用率が高い。
(新幹線を利用する必要がある企業が補助している可能性は高い)

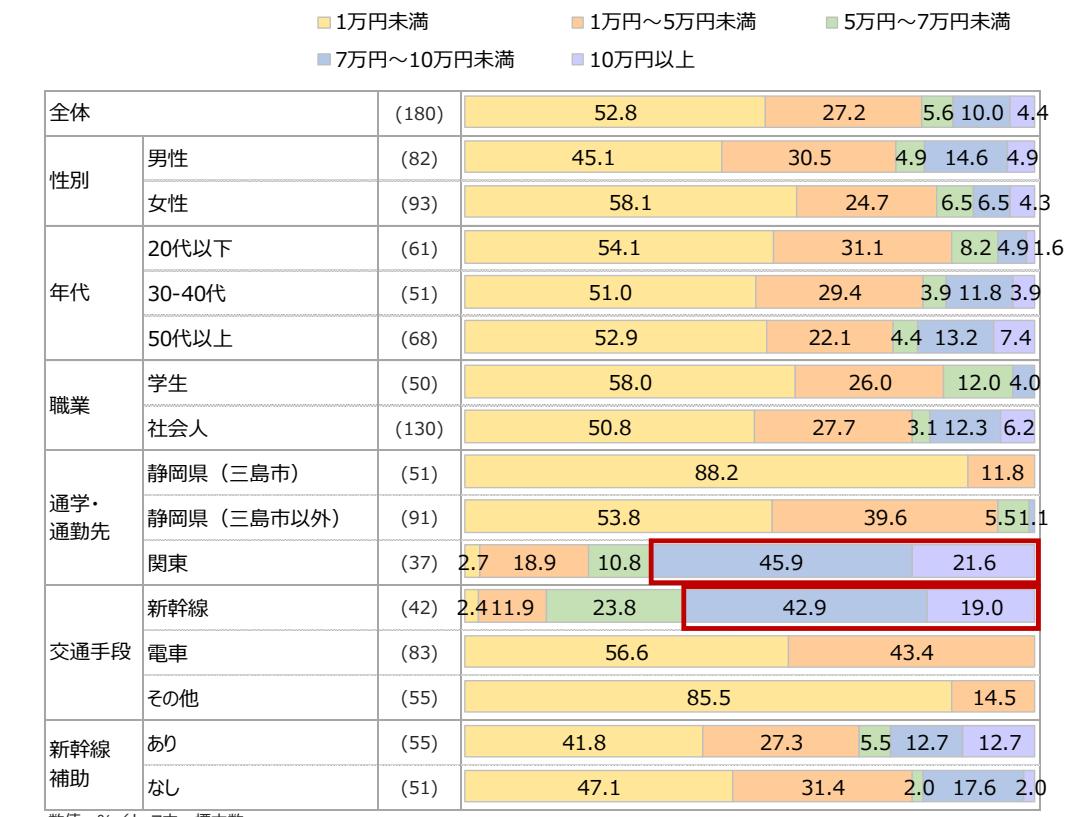
		(180)	新幹線	電車（JR在来線・私鉄）	その他
性別	男性	(82)	28.0	43.9	28.0
	女性	(93)	19.4	49.5	31.2
年代	20代以下	(61)	18.0	59.0	23.0
	30-40代	(51)	23.5	39.2	37.3
	50代以上	(68)	27.9	39.7	32.4
職業	学生	(50)	18.0	62.0	20.0
	社会人	(130)	25.4	40.0	34.6
通学・通勤先	静岡県（三島市）	(51)	37.3	62.7	
	静岡県（三島市以外）	(91)	7.7	68.1	24.2
	関東	(37)	91.9	5.4	2.7
交通手段	新幹線	(42)	100.0		
	電車	(83)	100.0		
	その他	(55)	100.0		
新幹線補助	あり	(55)	38.2	34.5	27.3
	なし	(51)	23.5	43.1	33.3

数値：%／カッコ内：標本数

1ヶ月あたりの交通費

Q8. 1ヶ月あたりの通学・通勤にかかる交通費をお選びください。

- 「1万円未満」が5割。「7万円以上」は15%程度。
- 『関東』通学・通勤者は「7万円以上」が7割を占める。
- 『新幹線』利用者は「7万円以上」が6割を占める。



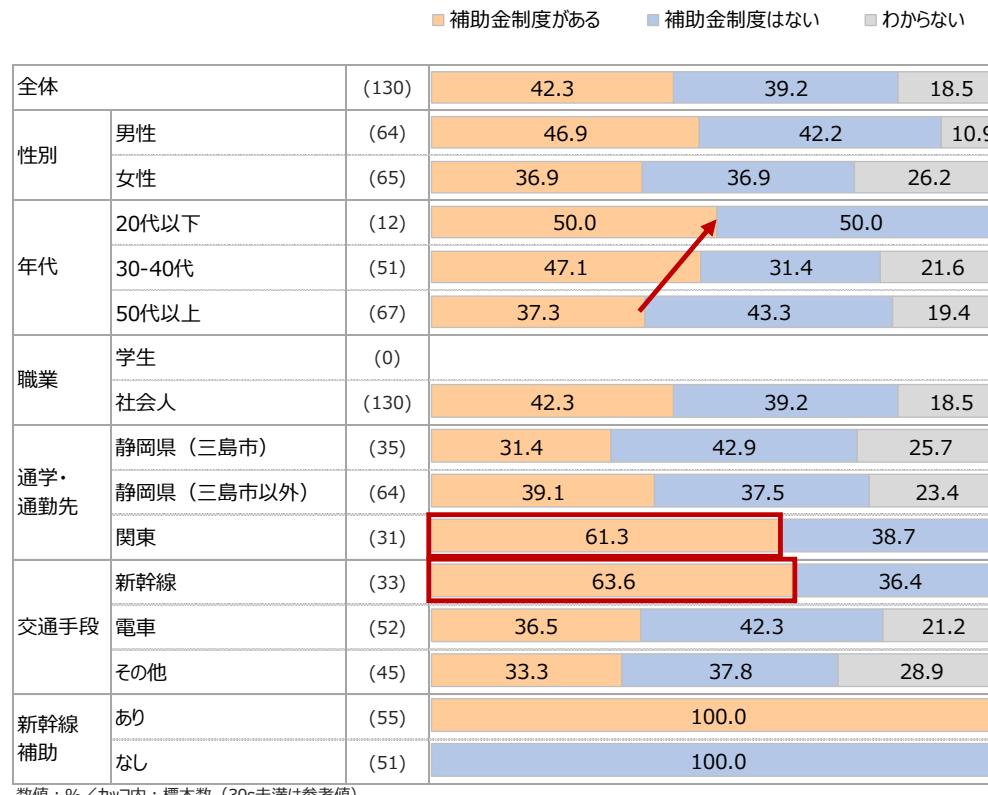
数値：%／カッコ内：標本数

補助金制度

Q9.あなたがお勤めの会社では、新幹線通勤に対する補助金制度はありますか。

- 「補助金制度がある」のは4割、「ない」も4割、2割は不明。
- 年代が低いと補助金ありの比率が高い。（20代以下はサンプル数僅少）
- 『関東』通勤者は6割が「補助金あり」。
- 『新幹線』通勤者の6割が「補助金あり」。

※社会人ベース

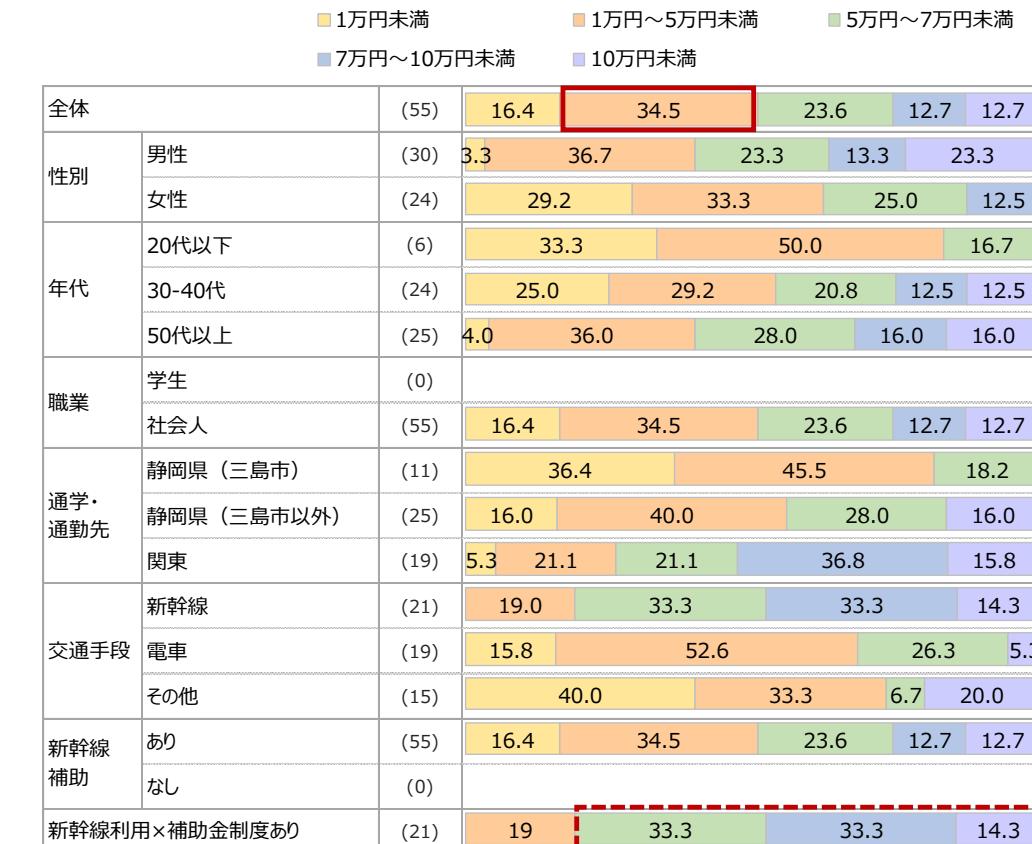


補助金額

Q10.前問で「新幹線通勤補助金制度がある」とお答えの方に伺います。 一か月で補助される金額をお選びください。

- 「1万円～5万円未満」が35%で最も高く、「5万円～7万円」が24%でつづく。「7万円以上」で2割以上を占める。
- 年代が高いと補助金額が高い傾向。
- 補助金制度がある会社勤務者で新幹線利用者の8割が補助金として「5万円/月以上」支給されている。（サンプル僅少のため参考値）

※補助金制度ありベース



居住意向

Q11.あなたは、将来三島市に住みたい（住み続けたい）と思いますか。

- 8割程度が三島市への「居住意向あり」。「どちらともいえない」が2割で、「居住意向がない」のは3%にとどまる。
- 年代が高いと居住意向も高い傾向。
- 『関東』通学・通勤者や『新幹線』利用者の居住意向は相対的に低い傾向。
- 新幹線補助が『ある』人の居住意向は6割。3割は「どちらともいえない」。
- 補助金制度がある会社勤務者で新幹線利用者の三島市居住意向は6割。（サンプル僅少のため参考値）

※学生・社会人ベース

■ 三島市に住みたい ■ どちらとも
(住み続けたい)と思う ■ いえない ■ (住み続けたい)とは思わない

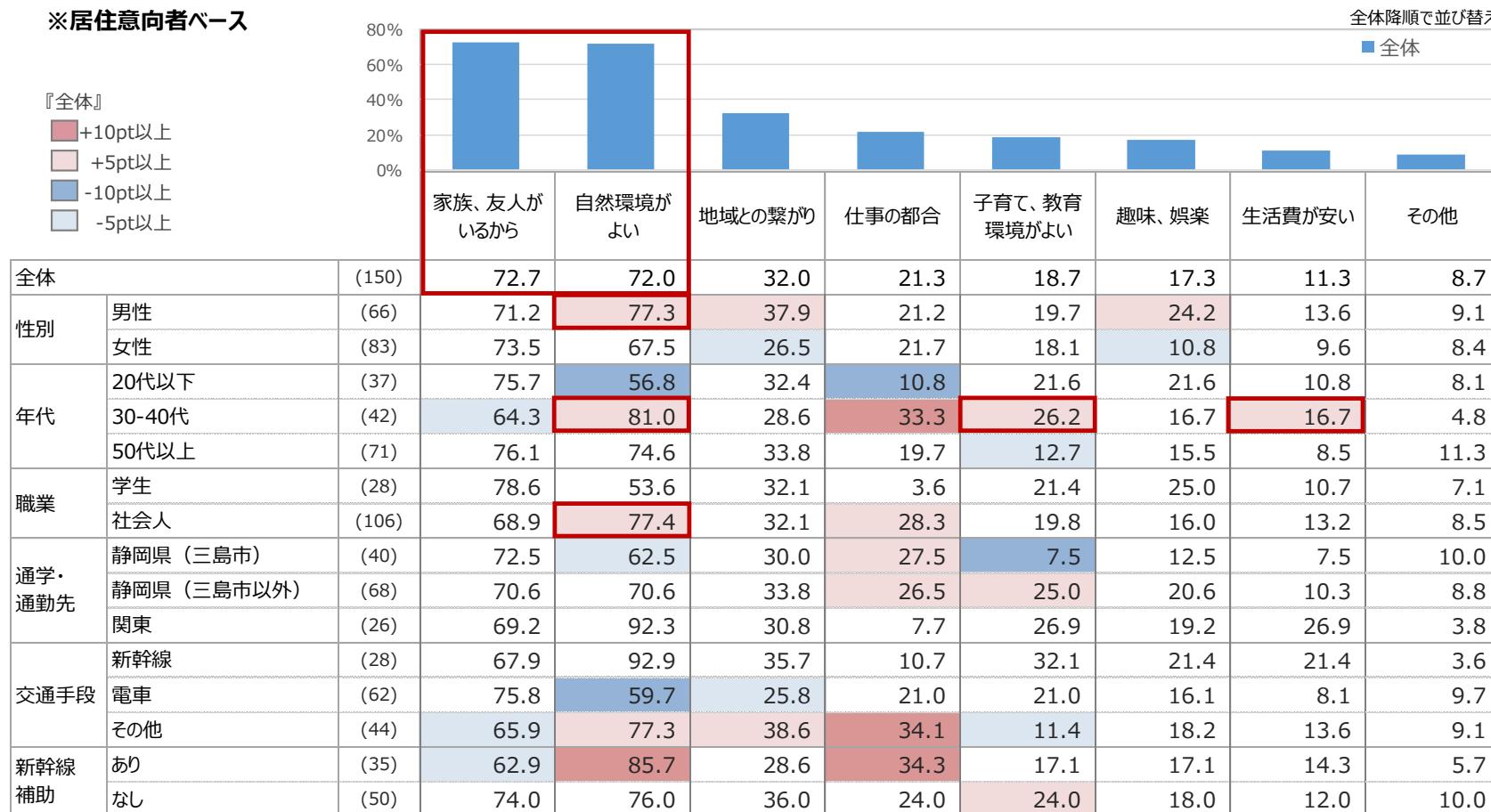
全体		(197)	76.1	21.3	2.5
性別	男性	(87)	75.9	21.8	2.3
	女性	(105)	79.0	19.0	1.9
年代	20代以下	(61)	60.7	34.4	4.9
	30-40代	(54)	77.8	18.5	3.7
	50代以上	(82)	86.6	13.4	
職業	学生	(50)	56.0	38.0	6.0
	社会人	(130)	81.5	16.9	1.5
通学・ 通勤先	静岡県（三島市）	(51)	78.4	21.6	
	静岡県（三島市以外）	(91)	74.7	20.9	4.4
	関東	(37)	70.3	27.0	2.7
交通手段	新幹線	(42)	66.7	28.6	4.8
	電車	(83)	74.7	21.7	3.6
	その他	(55)	80.0	20.0	
新幹線 補助	あり	(55)	63.6	32.7	3.6
	なし	(51)	98.0		2.0
新幹線利用×補助金制度あり		(21)	57.1	42.9	0

数値：%／カッコ内：標本数

居住意向理由

Q12.あなたは前問で「{Q11}」と回答しました。そのようにお答えになった理由をすべてお選びください。（複数回答）

- 「家族、友人がいるから」、「自然環境がよい」の2つがともに7割を超える。
- 「家族、友人がいるから」は層を問わず全体的に高スコア。
- 「自然環境がよい」は特に『男性』、『30-40代』、『社会人』で高スコア。
- 『30-40代』はファミリー層が多い世代ということもあり、「子育て、教育環境がよい」や「生活費が安い」のスコアが他層より高い。

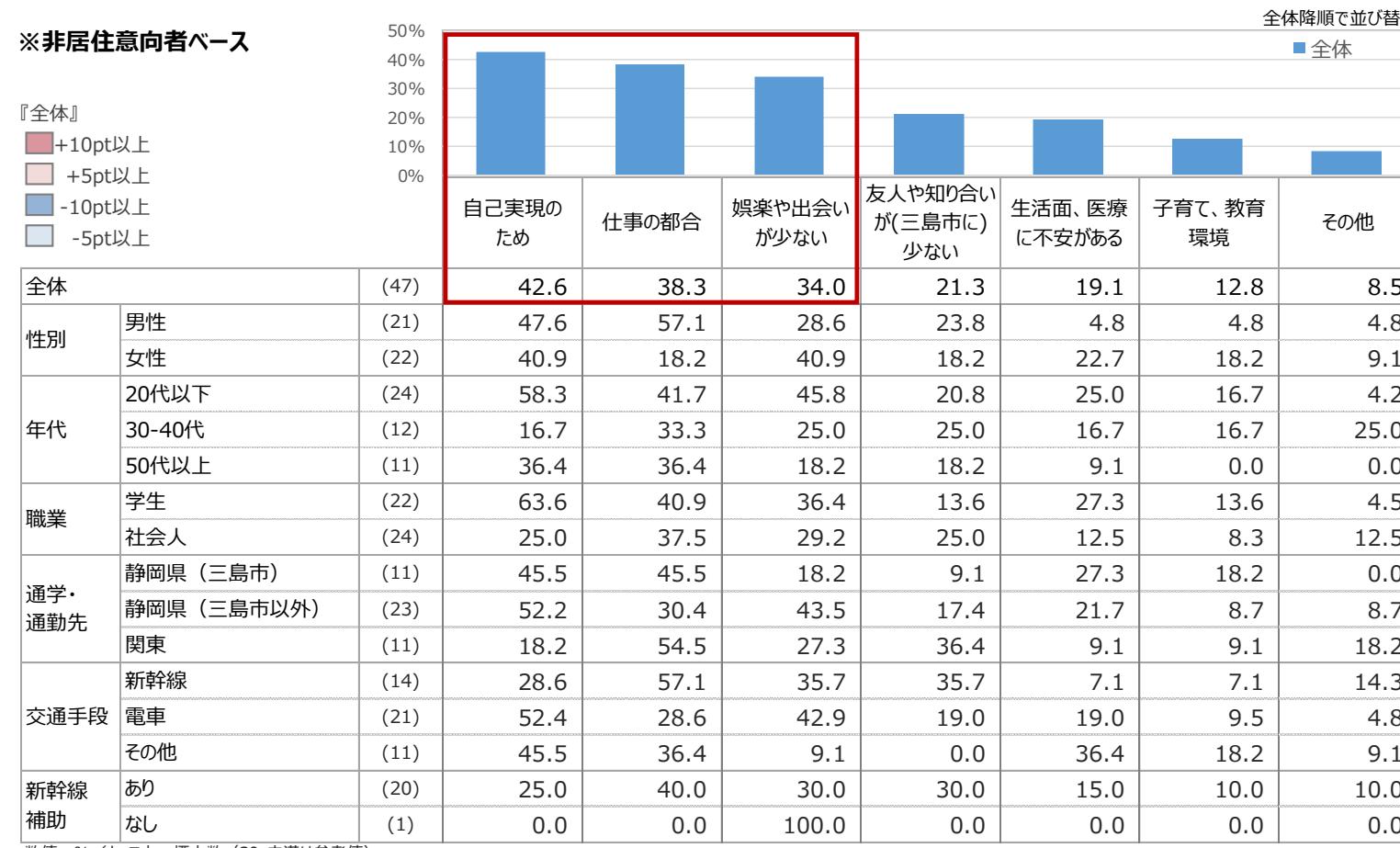


非居住意向理由

※Q11で「どちらともいえない(N=42)」「三島市に住みたい(住み続けたい)とは思わない(N=5)」を選択者

Q13.あなたは前問で「{Q11}」と回答しました。そのようにお答えになった理由をすべてお選びください。(複数回答)

- 「自己実現のため」が4割を超えて最も高く、「仕事の都合」、「娯楽や出会いが少ない」はともに3割を超える。



卒業後の居住意向

Q14. 東京圏に進学している方に伺います。 新幹線通学補助制度があれば、卒業後三島市に住みたい（住み続けたい）という気持ちになりますか。

- 『関東』進学者の8割が補助金があることで、三島市に「住み続けたい」という気持ちになる」と回答。（サンプル数僅少のため参考値）

東京圏就職者の居住意向

Q15. 東京圏に就職している方に伺います。 新幹線通勤補助制度があれば、三島市に住みたい（住み続けたい）という気持ちになりますか。

- 『関東』通勤者の全員が補助金があることで、三島市に「住み続けたい」という気持ちになる」と回答。

※東京圏進学者ベース

■ 住みたい（住み続けたい） ■ 住みたい（住み続けたい） ■ 利用したいと
という気持ちになる という気持ちにならない 思わない

全体	(6)	83.3	16.7
性別	男性	(1)	100.0
	女性	(4)	100.0
年代	20代以下	(6)	83.3
	30-40代	(0)	
	50代以上	(0)	
職業	学生	(6)	83.3
	社会人	(0)	
通学・ 通勤先	静岡県（三島市）	(0)	
	静岡県（三島市以外）	(0)	
	関東	(6)	83.3
交通手段	新幹線	(6)	83.3
	電車	(0)	
	その他	(0)	
新幹線 補助	あり	(0)	
	なし	(0)	

数値：%／カッコ内：標本数（30s未満は参考値）

※東京圏就職者ベース

■ 住みたい（住み続けたい） ■ 住みたい（住み続けたい） ■ 利用したいと
という気持ちになる という気持ちにならない 思わない

全体	(31)	100.0
性別	男性	(18)
	女性	(13)
年代	20代以下	(3)
	30-40代	(11)
	50代以上	(17)
職業	学生	(0)
	社会人	(31)
通学・ 通勤先	静岡県（三島市）	(0)
	静岡県（三島市以外）	(0)
	関東	(31)
交通手段	新幹線	(28)
	電車	(2)
	その他	(1)
新幹線 補助	あり	(19)
	なし	(12)

数値：%／カッコ内：標本数（30s未満は参考値）

非対象者の意見

Q16.新幹線通学・通勤補助制度の対象とならない方に伺います。 新幹線通学・通勤補助制度について、どのように感じますか。

- 「若者の進学・就業支援につながるので良い」が5割、「若者の三島定住につながるので良い」が3割を占める。
- 『20代以下』や『学生』は、「進学・就業支援につながる」は7割を占めるが、「定住につながる」は2割にとどまる。
- 「進学・就業支援につながらない」や「定住につながらない」と回答した人はほとんどいない。
- 一方で「他の施策にお金を使ってほしい」が1割。

※新幹線通学・通勤補助制度非対象者ベース

		若者の進学・就業支援につながるので良いと思う	若者の進学・就業支援につながらないと思う	若者の三島定住につながるので良いと思う	若者の三島定住につながらないと思う	もっと他の施策にお金を使ってほしい	その他
全体	(160)	54.4	1.3	31.3	1.3	10.0	1.9
性別	男性	45.6	1.5	41.2	1.5	8.8	1.5
	女性	61.4	1.1	23.9	0.0	11.4	2.3
年代	20代以下	67.3	1.9	21.2	0.0	9.6	0.0
	30-40代	60.5	2.3	23.3	2.3	11.6	0.0
	50代以上	40.0	0.0	44.6	1.5	9.2	4.6
職業	学生	70.5	2.3	20.5	0.0	6.8	0.0
	社会人	44.4	1.0	36.4	2.0	13.1	3.0
通学・通勤先	静岡県（三島市）	51.0	0.0	37.3	0.0	9.8	2.0
	静岡県（三島市以外）	52.7	2.2	28.6	2.2	12.1	2.2
	関東	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
交通手段	新幹線	50.0	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5
	電車	54.3	0.0	29.6	1.2	13.6	1.2
	その他	50.0	3.7	35.2	1.9	7.4	1.9
新幹線補助	あり	33.3	0.0	41.7	2.8	16.7	5.6
	なし	43.6	2.6	38.5	2.6	10.3	2.6

数値：%／カッコ内：標本数（30s未満は参考値）

03 | 進学時の新幹線定期利用率 についての推察

(計算方法)

三島市在住1学年分(R6年新成人)を母数として計算する

新幹線定期利用実態・意向の推計方法について

<推計値算出の目的>

(1)現状の三島市居住の学生が、進学で首都圏へ進学する際に
新幹線定期で「通学」をしている人がどれくらいいるのかの利用実態把握(推計値)。

(2)また、現状補助金を利用したいと考える学生がどれくらいいるかを把握することで
補助金設定額の検討等や制度化の可否判断に役立てるため。

<活用するデータ>

DATA1



三島市実施 R6年3月実施
卒業生の進路実態調査

DATA2



三島市実施 R6年12月実施
新成人向け調査(本調査)

<明らかにすべき数値>

三島市から新幹線通学する率

①卒業生の首都圏進学率(対象高校生全体の首都圏進学率)
②三島市在住で首都圏へ通学する率
③三島市在住かつ首都圏通学者の新幹線利用率

首都圏転居者が補助金ありの場合
新幹線通学をする比率

④三島市出身者の進学による首都圏転居率
⑤転居者の補助金があった場合の三島居住意向

三島市から新幹線通学する率

$$= ① \times ② \times ③$$

①卒業生の
首都圏進学率

②三島市在住で
首都圏へ通学する率

③首都圏通学者
の新幹線利用率

$$42.4\% \times 59.7\% \times 65.1\% = 16.5\%$$

首都圏転居者が補助金ありの場合
新幹線通学をする比率

$$= ① \times ④ \times ⑤$$

①卒業生の
首都圏進学率

④進学による
首都圏転居率

⑤補助金があった場合の
三島居住意向

$$42.4\% \times 40.3\% \times 65.5\% = 11.2\%$$

補助金予算シミュレーション(前提条件)



母数集団

三島市居住学生数(卒業生数)
960名
(R6年度新成人人数を参考)



補助金がない状態で三島市から
首都圏へ新幹線通学する率

16.5%



首都圏転居者が補助金ありの場合
新幹線通学をする比率

11.2%

① 現状の定期利用率で「1万円/月」の補助金を、配布する場合の【1学年あたり】の1年間の予算算出【推計】

$$A:1学年あたりの首都圏新幹線通学人数 \\ 960名 \times 16.5\% \times B:1名あたりの年間の補助額 \\ 10,000円 \times 12ヶ月 = A 159名 \times B 12万円 = ① 1,908万円/年$$

② 「1万円/月」の補助金がある場合に、現状首都圏に転居している人のうち、補助金利用意向があると応えた人の【1学年分】の1年間の追加予算【推計】

$$C:1学年あたりの首都圏転居をやめる人数 \\ 960名 \times 11.2\% \times B:1名あたりの年間の補助額 \\ 10,000円 \times 12ヶ月 = C 108名 \times B 12万円 = ② 1,296万円/年$$

※首都圏に転居している人が
補助があれば三島市居住を
希望するであろう人数の追加補助額

①+② 「1万円/月」の補助金がある場合の、補助金利用意向を加味した【1学年分】の1年間の合計予算【推計】

$$①+② = 3,204万円/年$$

(①+②)×4学年 「1万円/月」の補助金がある場合の、補助金利用意向を加味した【4学年分】の1年間の合計予算【推計】

$$(①+②) \times 4学年 = 12,816万円/年$$

参考①:首都圏進学者の居住地(新成人向け調査より)

単一回答	n	%
全体	(72)	
1 静岡県(三島市)	43	59.7
2 静岡県(三島市以外)	0	0.0
3 東京都	17	23.6
4 千葉県	3	4.2
5 神奈川県	7	9.7
6 埼玉県	2	2.8
7 関東(その他)	0	0.0
8 その他	0	0.0

参考③:首都圏進学かつ首都圏居住者の補助金ありの場合の三島市居住意向

単一回答	%
全体	(29)
1 住みたい(住み続けたい)という気持ちになる	65.5
2 住みたい(住み続けたい)という気持ちにならない	20.7
3 利用したいと思わない	13.8

参考②:三島市居住かつ首都圏進学者の通学時の移動手段

単一回答	n	%
全体	(43)	
1 新幹線	28	65.1
2 電車(JR在来線・私鉄)	13	30.2
3 その他	2	4.7

04 | 総括

1. 通学・通勤先が「関東」は5割
2. 関東通学・通勤者の4割が「新幹線」を利用、4割が「電車(在来線)」を利用
3. 新幹線利用者の8割以上が「交通費5万円/月以上」
4. 新成人全体の三島市定住意向は5割
新幹線利用者では4割
5. 【三島市が補助金制度を始めた場合】関東通学・通勤者は8割が「三島市に住みたい(住み続けたい)」と回答
新幹線利用者では9割
6. 補助制度対象外の人も6割が「進学・就業支援になるので良い」と回答。
一方で、「三島市定住につながるので良い」は1割にとどまる。

三島市が補助金制度を始めた場合、関東通学・通勤者の8割が「三島市に住みたい(住み続けたい)」と回答、新幹線利用者に至っては9割に達する。

補助制度対象外の人も、6割が「進学・就業支援になる」とポジティブに回答しており、補助金の効果の大きさが窺える。

一方で、「三島市定住につながるので良い」は1割にとどまることから、

補助金によって「進学・就業支援になる」可能性はあるが、それがどの程度「若年層の定住」につながるかは不透明な状況といえる。

1. アンケート回答者は、通学・通勤先が「関東」が2割
2. 関東通学・通勤者の9割が交通手段として「新幹線」を利用
3. 新幹線利用者の8割以上が交通費は「5万円/月以上」
4. 社会人で新幹線利用者の6割が「補助金あり」、4割はない
5. 補助金制度がある会社勤務者で新幹線利用者の8割が補助金として「5万円/月以上」支給されている（サンプル僅少のため参考値）
6. 三島市居住意向は8割弱。
補助金制度がある会社勤務者で新幹線利用者の三島市居住意向は6割（サンプル僅少のため参考値）
7. 【三島市が補助金制度を始めた場合】関東通勤者は全員が「三島市に住みたい（住み続けたい）」と回答
8. 【三島市が補助金制度を始めた場合】補助制度対象外の人も5割が進学・就業支援になるので良いと回答。3割が三島市定住につながるので良いと回答

三島市が補助金制度を始めた場合、関東通勤者全員が「三島市に住みたい（住み続けたい）」と回答しており、補助金の効果の大きさが窺える。

一方で、補助金制度がある会社勤務者で新幹線利用者の三島市居住意向は6割にとどまる。（サンプル僅少のため参考値）

補助金の支給元が三島市だと、三島市への帰属意識が高まり、居住意向に繋がる可能性が垣間見える。